

町村週報

(町村の購読料は会費
の中に含まれております)

2723号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955
発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697
<http://www.zck.or.jp>



チャグチャグ馬コ（岩手県滝沢村）

もくじ

- | | | | |
|---|----------------------------------|---|--------------------|
| 随想 | 情報 | 政策 | 論説 |
| 販売のこころ | 町村Navi | フォーラム | 里山の未来に関する四つの選択肢 |
| 青森県板柳町長 鎌岡一郎 (15) | 島根県海士町 (9) | 日本社会の組織主義の良さが發揮された歴史を否定はしない。しかし今、「組織」は健全なのか。ダメになる組織は、ほぼ共通して組織内の風通しが悪いところである。権限を持たない下位の者がモノを言えず、あるいはモノを言う気力を失っている官公庁や会社がある。「個」も確立しなければ、「組織」の良さは發揮できない。 | 森林ジャーナリスト 田中淳夫 (2) |
| ○写真募集○ | 65歳以上の高齢者人口が過去最高に=2010年版「高齢社会白書」 | 人づくりから「まちづくり」へ教育の魅力で全国から人を呼ぶ=島根県海士町 (9) | 里山の未来に関する四つの選択肢 |
| 本誌表紙に掲載の写真を募集しています。
四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付して下さい)
なお、探査は当方に一任願います。 | 九州大学大学院法学研究院教授 木佐茂男 (13) | 青森県板柳町長 鎌岡一郎 (15) | 森林ジャーナリスト 田中淳夫 (2) |

閑話休題

「組織としての記憶」力は?

九州大学大学院法学研究院教授

木佐 茂男

1990年代の「失われた10年」が、21世紀に入り「失われた20年」になり、さらに次の「失われた30年」が続きそうである。日本社会の組織主義の良さが發揮された歴史を否定はしない。しかし今、「組織」は健全なのか。ダメになる組織は、ほぼ共通して組織内の風通しが悪いところである。権限を持たない下位の者がモノを言えず、あるいはモノを言う気力を失っている官公

庁や会社がある。「個」も確立しなければ、「組織」の良さは發揮できない。

私の頭に染み込んでいる「日本の役所には組織としての記憶力がない」という山口二郎・北海道大学教授の発言がある。ご本人によれば活字で発表した論稿はないと言われるが、数日前、ついに自家の資料の山の中から発言記録を見つけた。2010年度で終わるという北海道地方自治士講座の第2年目(1996年)を継続傍聴して書かれた記録・藤沢教子「地方自治士講座座聴講記 コームイン達の背中」しゃりぱり173号(1996年7月号)に、第1回目聴講記として載っていた。

山口教授が日本の役所の体質として挙げ

た重要事項には、①「プロセスが見えない」こと、②「非歴史性」がある。②に関しては、「きちんととした記録、つまり組織としての「記憶」がない。スマート、サリードマイドの経験を持つ厚生省は「記憶」していない。薬害エイズ問題のようなことは、この体质が変わらない限り、また必ず起る」と。

14年後の今も旧態依然の組織が多い。「組織としての記憶」作りに向けて、ごく稀にペーパーとデジタル双方の立派な管理システムを構築している自治体もある。だが、この頃は(も?)、「組織としての記憶」を有印公文書偽造の形で平氣で作る公的組織さえある。問題に気づいている「個」である職員も多い。組織記憶喪失の原因は多様だが、短期の人事異動、職員の専門性・自立性の希薄さ、文書管理・電子情報管理のお粗末さもある。現在も「個」の役割は正当に評価されず、「官僚制」のあるべき姿の崩壊、公務員制度の綻びが目立つ。新たな公文書管理制度の良い運用も重要であるが、組織自体の自己溶解をどう押しとどめるか問われている。

○写真募集○

本誌表紙に掲載の写真を募集しています。
四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付して下さい)
なお、探査は当方に一任願います。
送り先:全国町村会・広報部